

栃木県現代俳句協会報

No. 172



第一七二号

発行所

〒327-0315 佐野市吉水駅前一丁目一八水口方

栃木県現代俳句協会

発行人 中井洋子
編集人 松本登子

令和五年十二月十日発行

第31回 現代俳句色紙展

令和五年十一月十一日(土)・十二日(日)
とちぎ岩下の新生姜ホール大会議室

八十四年間の歴史

戸田富美子

十一月十一日から十二日、とちぎ岩下の新生姜ホールで第三十一回現代俳句色紙展が開催された。

初日の朝、中井洋子会長より「十分気を付けて準備をして下さい」との挨拶があり色紙二十五点、短冊二十六点、はがきで一旬十八

点の展示が始まる。パネルを立てる五人の男性(平均年齢八十歳以上)が大活躍された。花の係は里芋、アスパラ、茴香、鬱金などの葉で花々を引き立たせ、赤い実の多羅葉やからすうりも皆の目を楽しませた。

色紙展の一面に、十四年間に会長を務められた今年名誉会長に就任された「和田浩一の俳句世界」のコーナーが企画された。皆が目を見張ったのは、命名時の曾祖父のよろこびの句と、十四歳の時の句の染筆である。短冊の色に歴史を感じ、この二枚が八十四年の俳句人



全員集合

生の始まりであつたと思う。

展示のすばらしい俳句十四点と、父上が遺された二十八個の落款は見応えがあつた。若かりし日の写真や「和田浩一の俳歴」なども見ると、このコーナーに凝縮された八十四年間が見えて来た。

展示会終了後の懇親会で、中井会長は「入場者は去年より多く、又準備と片付けも手際良く怪我なく出来て、たいへん良かった。さらに『和田浩一の俳句世界』は、展示品も飾り付けも全ての点で圧巻だった」と挨拶された。その後、米寿の大嶋邦子さん、傘寿の和田璋子さんに薔薇の大きな花束が贈られた。

一つの行事が終わりほっとすると同時に、二日間の充実した時間を心に満たし、家路に着いた。



会場風景



和田浩一の俳句世界



終了後の懇親会の様子



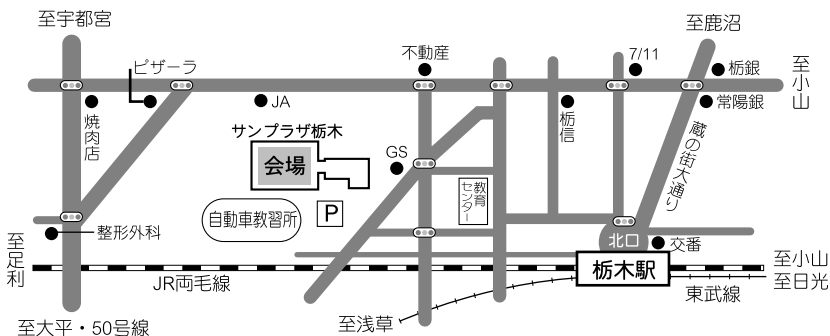
出品目録一覽

- 隅櫓に大軍来るぞ罽雲
園児らの声もはじめて手鞠花
向日葵の元氣を買つて帰りけり
水の野生閉ざして冬の華厳かな
夜のメロンは世界を編んでいる
岩と波永遠にぶつかり沖繩忌
月光を筆に含ませ虚偽を書く
老ゆる日をゆるりとのばす茅の輪かな
- 本間睦美
堀 秀子
堀 秀子
神山姫余
神山姫余
石倉夏生
石倉夏生
中村克子
- ピザ窯の火の音くずれ沖繩忌
まだ息をしており朱い落椿
石の標本どこかに雪の降る匂ひ
光束ねる噴水へ乳母車押す
待針の頭を揃え終戦日
大晦日夕日に向い一礼す
伝言板に名前を捜し昭和の日
夏星や詩の源流として孤独
さびしさの分だけ折られ紙雛
テーブルも椅子も切り株冬日向
花吹雪人の形になつてをり
- 和田浩一
和田浩一
中井洋子
中井洋子
和田璋子
和木洋子
高木洋子
水口圭子
水口圭子
相田勝子
齋藤絢子
齋藤絢子
佐々木輝美
佐々木輝美
速水峰郎
速水峰郎
大嶋邦子
- 狭き世の息継ぎ覚え水中花
ひとひらにひとひら寄りて花筏
観音の衣を引いて春の雲
撫仏列をなす寺新樹光
水の字を標す土蔵や青田風
みず色のえのぐひといる夏休み
夏の雲スカイツリーを一呑みに
夕暮れの宅配便に「かぼす」の香
古渡りの切子に満たす葉膳酒
秋うららおしゃべりやめて歩こうか
- 原田利江
江口 悠
沼田 満
沼田 満
中田陽子
橋本尚子
橋本尚子
橋本尚子
滝澤良恵
滝澤良恵
松本登子
増山ちさ
大竹照子
大竹照子
戸田富美子
戸田富美子
戸田富美子
本間睦美
- 雲巖寺生々世々の竹の春
酷深きワイン色なり曼珠沙華
旅に出る日のバナナの曲がり具合
双六のあがりはいつもうすい聞
- 須藤火珠男
中村國司
中村國司
北島洋子
北島洋子
- 須藤火珠男
須藤火珠男
五十嵐すず
山野井朝香
山野井朝香
中村克子
中村克子
中村克子
- おほいぬぶぐり辺り一面に磁気

令和6年度
総会・新春俳句会・賀詞交歓会のお知らせ

記

- *と き 令和6年1月14日(日)
午前10時受付 10時30分開会
- *と ころ サンプラザ栃木 萩の間
(栃木市片柳町2-2-2 TEL. 0282-23-5711)
- *会 費 5,000円(年会費2,000円も承ります)
- *作 品 雑詠2句(出席者のみ)
同封の返信ハガキにご記入ください。
- *返信締切 令和5年12月27日(水) 必着
- *特別選者は染筆(1点)をご用意ください。



【新入会員紹介】

綱川 羽音(さくら市) 推薦者 和田浩一

水澄むやサナトリウムといふ窪み
 ヒロシマは白い花咲く原爆忌
 耳たぶのかたさ確かむらフランス



栃木県芸術祭文芸賞

俳句部門 戸田富美子

【お知らせ】

○石倉 夏生
 現代俳句十一月号に「現代俳句の
 風 秀句を探る」が掲載されました。

◆訃報

軽部榮子さんが、令和五年十月
 八日逝去されました。
 享年八十四。
 謹んでお悔やみ申し上げます。

※次回173号の原稿締切り
 は、1月31日です。